

# 公 民 科

## 1 ねらい

「言語活動の充実」は、公民科における思考力・判断力・表現力等を育成することをねらいとして行うものです。思考力・判断力・表現力等は言葉を通じて発揮されるものですから、各教科・科目の評価規準に照らして言語活動を充実させることによって、思考力・判断力・表現力等は身に付いていきます。

「言語活動の充実」とは、それぞれの教科で学んだ知識・技能を活用する学習活動、すなわち「観察・実験をし、その結果をもとにレポートを作成する、文章や資料を読んだ上で、知識や経験に照らして自分の考えをまとめて論述する」（新しい学習指導要領についての中央教育審議会答申 平成20年1月。以下、平成20年答申）といった学習活動を、授業の中に組み込んでいくことを指します。平成20年答申では、社会科、地理歴史科、公民科の改善の基本方針の中で、「地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述すること」を活用という学習活動の例として示しています。

なお、大きな声で挨拶をする、適切な言葉遣いで話す、といったことは、ここで言うところの言語活動ではなく、生徒の言語活動がより適正に行われるようにするための「学校生活全体における言語環境の整備」にあたるものです。

## 2 公民科における言語活動

言語活動を充実させるに当たって、次の点に留意することが必要です。

### 留意点①

「言語活動の充実」とは、思考力・判断力・表現力等を育成するための「手段」であり、言語活動を行うことが「目的」ではありません。ただ形式的にプレゼンテーションやディベート形式の議論を行って、それでよしとするならば、「活動あって内容なし」とのそしりを免れません。

### 留意点②

「言語活動の充実」とは、単に「話すこと、書くこと、読むこと」ではありません。各教科・科目における思考力・判断力・表現力等は、授業を通して習得した知識や概念、資料活用の技能を基盤として、さまざまな課題を考察したり、判断したり、その過程も含めて結論を表現する活動を通して身に付くものです。したがって、何でもいいから思考さえすればよいわけではなく、また既習の知識・概念や技能を用いず、生活体験から得られた知識で思考できるものでは、授業の指導の結果としての言語活動とは言えません。何をやるかが大切なのです。

### 3 Q & A

**Q** 地理歴史科や公民科は、ただでさえ、教えることが多くて授業時数が足りないのに、その上、論述や討論の指導をしなければならないのですか？

**A** 当然の疑問のように聞こえますが、少し誤解があるようです。確かに、地理歴史科の目標には、「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め」、公民科の目標には、「現代の社会について…理解を深めさせる」とあり、各教科の内容を習得させるようにすることが規定されています。そのため、高等学校においては、基礎的・基本的な知識・技能の習得を中心においた授業が行われている現状があります。

しかし、地理歴史科、公民科の教科・科目の目標には「考察させることによって、歴史的思考力を培い」（世界史A、日本史A）、「地理的な見方や考え方を培い」（地理A、地理B）、「現代の社会について主体的に考察させ」（公民科）などあるように、それぞれの教科・科目における思考力等を育てることが掲げられています。つまり、「言語活動の充実」とは、知識や概念を「教え込むこと」に偏りがちな授業を見直し、意図的、計画的に思考力等を育てる活動を授業中に設けましょうということの意味しているのです。

もともと、習得や活用、探究といった学習活動は相互に関連し合っており明確に区別することはできません。知識・技能の活用や探究がその習得を促進するなど、相互に関連し合って、学力を伸ばすことにつながります。少々遠回りのように思えるかもしれませんが、言語活動を充実させることが、各教科・科目の目標を実現し、生徒の当該教科における学力をアップすることにつながるのです。

### 4 学習指導の事例

公民 （現代社会）複数の資料から読み取ったことを比較して特色を説明したり、原因と結果の関係で解釈し、関連付けて説明する事例

1 単元名： 基本的人権の保障

～女性の人権は守られているか？ 仕事と出産・育児を通して考えてみよう～

2 単元の目標： (1) 女性の雇用と労働を巡る問題の現状とその背景、男女が共同して社会に参画することの重要性について理解することができる。

(2) 複数の資料から読み取ったことを比較して特色を説明したり、原因と結果の関係で解釈し、関連付けて説明することができる。

### 3 単元指導計画

	学習活動・内容	指導上の留意点（手立て）
第 1 次	<p>1 学習の方向性をつかむ。</p> <p>(1) 「もしも、性別が変われるとしたら」の発問に対し、選択した性別とその理由を発表する。</p> <p>(2) 本時のテーマを確認し、学習の見通しを持つ。</p>	<p>○ 3～4名の班で意見を交換させる。</p> <p>○ ワークシートに自分の考えを記入する時と、他者の考えを記入するときは筆記具の色を変えて区別しておくことを指示する。</p>
	<p>2 日本の女性が置かれた社会的な状況について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非正規雇用の割合が増えている。</li> <li>・男性に比べ昇給しにくい。</li> <li>・これらのことから           <ul style="list-style-type: none"> <li>①雇用や労働面で男性より不利である。</li> <li>②男女の本質的平等が憲法上保障されていないながら、実質的な平等の実現は不十分である。</li> </ul> </li> </ul>	<p>○ 3～4名の班で意見を交換させ、生徒の既習内容や体験から、推理させる。</p> <p>○ パートやアルバイトの場合、定期的な昇給があまりないなど、正社員（正規雇用）とパート・アルバイト、派遣・契約社員等（非正規雇用）の間には、賃金や雇用の安定度に格差があることを確認する。</p>
	<p>3 日本の女性の労働力率の特色について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(労働力率) = (労働力人口) / (15歳以上人口)</li> <li>・30代の女性の労働力率は、諸外国の女性や日本の男性に比べ低い。</li> <li>・直近の20年でいわゆるM字カーブは消滅しつつある。</li> </ul>	<p>○ 日本の女性の労働力率の特色について理解できるよう、資料から読み取り、説明する活動を仕組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① まず資料のみからわかることを発表させ、年齢階級別の特徴しか読み取れないことに気付かせる。</li> <li>② 題名から「日本」、「女性」、「2010年」という要素を抜き出し、それぞれ外国、男性、他の年と比較させる。</li> </ul> <p>○ 特色を説明する時は、事柄を比較することが有効であることに気付かせ、その方法について丁寧に指導する。</p>
	<p>4 資料から読み取れることをもとに、30代女性の労働力率が落ち込み、40代で再び上昇する理由を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚した女性は平均すると30代前半で出産する。</li> <li>・家事・育児の負担は女性にかかっている。</li> <li>・これらのことから、推測されることは           <ul style="list-style-type: none"> <li>①家事・育児の負担のため、30代で離職し、育児の負担が減る40代で再就職する女性が多い。</li> </ul> </li> </ul>	<p>○ 「ではなぜ、30代の女性が働いている割合が低いのだろうか」と発問をし、3～4名の班で意見を交換させる。</p> <p>○ 資料から読み取ったことから、その主な原因が出産や育児による離職であることを推測させる。その際、資料から読み取れることと推測されることを分けて説明させる。</p> <p>○ 関連を説明する時は、原因と結果の関係で解釈することが有効であることに気付かせ、その方法について丁寧に指</p>

	<p>②再就職する場合、正社員として雇用されることは難しく非正規雇用となるため、それが女性の正規雇用率の低さと男性との賃金格差に結びついている。</p>	<p>導する。</p>											
<p>第2次</p>	<p>5 女性の仕事と子育てに関わる問題点と解決策を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30代の女性の中には、家事・育児の負担が大きいためやむなく離職した人、育児に専念したいが経済的に苦しく働かざるを得ない人がいる。</li> <li>・女性が結婚や出産・育児の有無にかかわらず、多様な働き方を主体的に選択できる環境を整えることが重要であることに気付く。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="248 819 798 1402"> <thead> <tr> <th colspan="2">女性の意思決定</th> </tr> <tr> <th></th> <th>積極的に選択</th> <th>消極的に選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退職</td> <td>・家事育児に専念したい</td> <td>・家事育児の負担が大きく仕方なく退職</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>・仕事と家事育児の両立可能 ・結婚や出産より仕事に生きがい</td> <td>・育児をしながらでは大変だが経済的に苦しく仕方なく ・両立が難しいので仕方なく結婚や出産を断念</td> </tr> </tbody> </table> <p>・「女性」という立場ゆえに「幸福」を求めるための多様な選択が阻まれているのは「不公正」で、人権尊重の観点から問題であり、望ましい解決策を考えねばならない（「正義」）ことを理解する。</p> <p>6 男女が共同して社会に参画することの重要性について理解し、そのための条件について考察する。</p> <p><b>【展開A】</b></p> <p>(1) 「今日の授業を振り返って、人権が守られた社会とはどんな社会か、自分なりに答えよう」という発問に対し、考えたことを発表する。</p>	女性の意思決定			積極的に選択	消極的に選択	退職	・家事育児に専念したい	・家事育児の負担が大きく仕方なく退職	継続	・仕事と家事育児の両立可能 ・結婚や出産より仕事に生きがい	・育児をしながらでは大変だが経済的に苦しく仕方なく ・両立が難しいので仕方なく結婚や出産を断念	<p>○ 女性が結婚や出産・育児に際して、仕事を続けるか続けないかの選択について、多様な選択肢があることに気付かせるために、積極的（主体的）な動機か、消極的な動機かに分類する活動を仕組む。</p> <p>○ 資料から日本の20代～40代の女性に潜在的就業希望者が10%前後おり、合計するとドイツやアメリカの女性の労働曲線とほぼ同じになること、他の資料から不本意ながら働き続けている状況や、家族・夫の協力が働き続けるための重要な要素となっていることを読みとらせる。</p> <p>○ 結婚、出産・育児等は、当事者の自由の幸福を実現するために行った選択の内容に優劣はないことを強調する。</p> <p>○ 社会の在り方を考察させるにあたって、「幸福、正義、公正」などを用いて考察させる。</p> <p>○ 現在、男女共同参画社会の視点から問題があると考えられる慣習や制度、人々の意識は、男性が仕事に専念しやすい環境を求めた結果（男性の「幸福」追求の結果）であることに留意して考察させる。</p> <p>○ この場面では、学習した内容をもとに、生徒に自らの人間としての在り方生き方や社会の在り方を考えさせ、考えた内容を発表させたり、文章に表現させたりする。</p> <p>○ 「人権が守られた社会とはどんな社会か」という発問は、オープンエンドの問いかけとし、生徒一人一人が自分な</p>
女性の意思決定													
	積極的に選択	消極的に選択											
退職	・家事育児に専念したい	・家事育児の負担が大きく仕方なく退職											
継続	・仕事と家事育児の両立可能 ・結婚や出産より仕事に生きがい	・育児をしながらでは大変だが経済的に苦しく仕方なく ・両立が難しいので仕方なく結婚や出産を断念											

<p>(2) 女性が仕事を続けながら安心して子育てができる環境をつくるためには、何が必要なのか、自分は何ができるかを考え、発表する。</p> <p><b>〔展開B〕</b></p> <p>クラスとしての①「私たちの男女共同参画宣言」②「女性が安心して出産・育児ができる雇用政策提言」を作成する。</p> <p>(1) 班で話し合い、①②をまとめる。</p> <p>(2) 班の代表者が、黒板に貼った用紙を見ながら発表する。</p> <p>(3) 全ての班のものを確認する。</p> <p>(4) 司会の生徒が、KJ法的手法によって各班の提案をまとめ、クラスとしての①「私たちの男女共同参画宣言」、②「女性が安心して出産・育児ができる雇用政策提言」を作成する。</p>	<p>りの定義をするように仕向ける。</p> <p>○ ①「私たちの男女共同参画宣言」は、個人の意識、文化的問題であるのに対し、②「女性が安心して出産・育児ができる政策提言」は社会的問題であることに気づかせ、その両面を意識して暮らすの宣言、政策提言をまとめるように促す。</p> <p>○ 班ごとに用紙（A3）を2枚準備し、①②それぞれを色を変えて書かせる。</p> <p>○ 班ごとにそれぞれ2～3つにまとめるように促す。その際、ここまでの授業内容が十分活かされ、オリジナリティがあり、実現可能なものになるようにという助言を行う</p>
<p>まとめ</p> <p>①女性が仕事を続けながら安心して子育てできる環境を作るためには、男性の協力とともに、企業や政府による支援策が必要である。</p> <p>②人権が守られた社会とは、すべての人にとって住みよい社会、共に生きることができる社会である。</p>	<p>○ どのような社会をめざすかについて、自分にとって職業に就くことの意味、家事や育児等の家庭生活や地域の活動に関わることの意味とともに考えるように促す。</p> <p>○ 本時の学習から、日常的社会に関心を持ち、主体的に考えることの重要性を認識させる。また、「主権者」としての主権の行使は選挙を通じて行われるということを改めて指摘する。</p>

#### 4 本事例と学習指導要領との関連

本単元は、高等学校学習指導要領公民「現代社会」における、内容の(2)イの「基本的人権の保障」及びアの「自己実現と職業生活」、「社会参加」、エの「雇用、労働問題」に基づいて設定した。本単元のねらいは、人権尊重の観点から、労働や家庭生活における男女の在り方について「幸福、正義、公正」などを用いて考察させるとともに、「事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理したり、社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり」するなどの「学び方を身に付けさせる」（公民編解説20ページ）ことにある。その際、社会の一員として自分はどうのように行動すべきか、自己の問題に還元しながら意識させる。



学習活動の様子

### ここがポイント

- 今回の授業は、①資料から自分の考えをつくる生徒の姿、②つくった考えを、資料を基に説明する生徒の姿の2点を目指すことに力点を置いて立案されました。そのねらいどおり、今回の授業では、生徒が資料を使って比較、因果関係、関連付けをして考えている姿を見ることができました。
- プレゼンテーションソフトを利用して資料を提示し、生徒全員をスクリーンに注目させ説明を聞かせるなど、ICTを活用した授業展開が工夫されています。
- 授業後のアンケートでは、「ふだんの授業と違い、考える機会や話し合う機会が多く楽しかった」「あまり考えたことがなかった問題を興味深く考えられた」「自分と違う考え方が聞けてよかった」のように、生徒自身がグループでの交流活動のよさを評価するものが多数見られました。このことからグループでの交流活動を取り入れた授業が、生徒の思考力を育むとともに、関心・意欲の向上にも効果があることが分かります。
- 生徒の発表内容が他の生徒に正確に伝わっているかを確認するために、生徒の発言の後に、「今の説明（意見）は理解できたか」「今の発言を聞いてどう思うか」といった発問を入れるとよいでしょう。

## 授業者の感想

- 今回の授業は、生徒に「考察」させること、「資料の読み取り・解釈」の手法などを理解させることができたと考えます。
- 企画の段階では、いままでグループで討論などをさせたことがないので、生徒が授業に乗ってくるか不安でした。しかし、いざ授業を始めると、自分の考えを文章として表現する、発表し説明する、生徒同士の討議による意見交換など、生徒が積極的に授業に取り組む姿が見られ、授業の手応えを感じることができました。交流活動の「機会をつくることの重要性」を痛切に感じました。
- 今回の授業は、授業者の予想どおりに授業が展開しましたが、もし予想とは違う発言が出てきた場合や、適切な解答が出てこないことも考えて準備しておく必要を感じました。
- 授業後のアンケートで「もっと自分の意見を言いたかった。もっと友達の考えを聞きたかった」との回答が多数見られました。交流活動の時間をもっととった方が議論が深まり、授業がおもしろくなったのではないかと考える反面、学習内容を理解させる時間も必要です。知識を理解させる時間と活動させる時間のバランスをとる工夫が大切だと考えました。
- 今回、プレゼンテーションソフトを使った授業に初めて挑戦しました。資料提示の方法としては非常に有効であることは実感できました。しかし、機器の操作のタイミングに失敗したり、立ち位置が悪く特定の席から見えづらかったりしたことがあり、ふだんから利用を心がけ、習熟することが不可欠であると思いました。